

生きた記事とは何か、を常に考えてきた筈が、50年を超えて家具業界専門記者歴を経て改めて問い直している。その理由はふたつ。一つは年間購読料の値上げをお願いしたこと。ふたつめは海外取材対応の対応基準だ。

問題は地方の家具店の方々や地場商圏に根ざした販売店で古くからの読者が紙面で指摘する「大手企業へ偏重した紙面」だ。創刊以来悩んできた商圏報道、中小家具生産、販売業者へ適したキメの細かい情報発信、取材対応。読んで頂く読者にとっての情報価値だとしたら、旬刊で届ける

月々の情報は待ち遠しく、事業に生きる血肉の情報でなければならなかった。

そう出張先のマレーシアのホテルで考え込む。今後は①生きた商品情報②国内市場動向③海外家具インテリア産業の現況と方向——などをまっは紙面に盛ることにした。少

## 3年ぶりのMIFF取材

### 読者へ血肉情報を

本社  
社長 長島貴好

なくも柱としていく。取材陣容が思うようにはいかないが、そうした内容で情報提供を継続する。読者のまして長

く読んでいた  
だいてきた  
方々の声は有  
難い。

3月6日か  
ら11日、クア  
ラルンプール

に出張。MIFF(マレーシア国際家具展)は2年間当社の記者を派遣、筆者は取材空

白を持った。久しぶりに会場を廻って、非常に勉強になったのはアシア、アセアンの家具産業の変遷。シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシアと主要国が自前の家具フェ

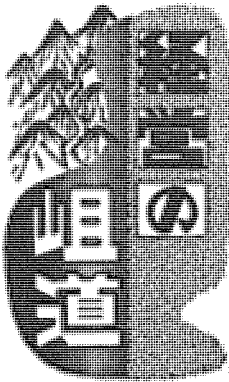
アを開催、なかでシンガポール、マレーシアがハブ的な国際催事の内容を持ってきた。

ダト・タン・チンホワツ氏が創始し、会長を務めるMIFFは同氏に言わせるとアセアン最大だが、この背景に規模が8万㎡(メイン会場のMITALと第2会場のMECC総展示面積)と広大なことがある。来年はさらに10万㎡

の新会場が完成、展示面積を拡大する。

今回改めて痛感したのは同国にアシアでも珍しい家具生産集中地が存在することだ。ジョホールバル州モア市が面積1376平方キロ、市の人口80万2489人、この街に約600近い家具企業があり、うち約200の企業が自社製品を市場に出し、300企業以上が家内工業型小零細企業で占める。

モア家具協会(会員570工場)では、同地域でマレーシア全体の出荷高の60%を占めるという。日本では二トリが20年余の取り引き実績を生産地企業と持つ。こうしたアシア・アセアンでも最大の生産集中地が基盤を成してマレーシアをアセアン最大の家具生産国に成長させてきた。製品はダイニングセットやソファ、ベッドなど多彩。



》1122《